

医療法人社団創健会 令和7年度 事業計画

病院看護師の中途退職に伴い松江記念病院病棟における看護基準が維持できなくなり、令和6年10月31日で老人保健施設ナーシングセンターあけぼのを閉鎖し全職員を介護医療院宇賀の里つばさに異動した。老人保健施設ナーシングセンターあけぼのは強化型老健として当法人のみならず地域の高齢者リハビリテーションの中心となる施設と位置付け、令和6年度の取り組みで7月頃より稼働も上がってきたので、私としては断腸の思いの決断であった。

令和6年12月19日松江圏域の10病院（松江赤十字病院、松江市立病院、松江生協病院、松江医療センター、玉造病院、鹿島病院、東部島根医療福祉センター、安来市立病院、安来第一病院、松江記念病院）が松江圏域医療機能連携協定を締結、地域における当院の機能が地域住民にも明確になった。後方支援・在宅療養支援病院としての「看取り、高齢者リハビリテーション」の役割に加え開院以来の予防医療への取り組みを更に充実させていく必要がある。

令和6年6月の診療報酬改定は+0.88%（医療関係職種のベースアップのための特例+1.07%、食費基準額の引き上げ+0.06%、生活習慣病管理料-0.25%）、薬価等の改定-0.99%で-0.11%の実質マイナス改定であった。令和5年度と比較すると医業収益増加率は1.9%であったが、医薬品費0.6%、診療材料費4.1%、委託費4.2%、経費（水道高熱）費3.1%と増加したため、61.2%の病院（令和5年度50.8%）が赤字決算であった。当院においても4000万円程度の赤字決算（令和5年度約8000万円の赤字）となる予定である。

令和7年度は、医療従事者確保、職員のベースアップ、医療DXの推進、感染症対策等支出面は更に増加することは明らかであり、赤字予算を計上することとなった。

今後の稼働率を上げ経営を安定させ地域指定病院、認定医療法人に向けての認定要件の整備のため法人体制を整えていく。

1 ホームページの刷新

当法人の五つのサービス（生活習慣病外来・一般外来、人間ドック・健診、高齢者リハビリテーション、看取り、在宅サービス）を中心に法人ホームページを令和7年冬に刷新する予定である。

2 認定医療法人のための組織再編

3 次世代への組織構築

部門別管理体制の強化

職員教育・研修、管理職教育プログラムの充実

4 働き方改革に伴う人事考課再考

5 地域貢献

医療・介護相談会、出張講座

ボランティアの会の設置

6 法人施設の建て替え

新築できる土地の確保のためには最低3年はかかる

現状でのリニューアルも検討する必要がある